



「原発ゼロ」より先へ!

もはや原発依存からの脱却は当たり前。そこから一步先の未来を考える

大飯原発「再稼働」派もあきれる 官邸「野蠻で稚拙な新5人組」

野田佳彦首相と枝野経産相ら3大臣は4月13日夜、懸案の関西電力大飯原発3、4号機の再稼働を「妥当」と判断し、強行突破する方針を決めた。

地元自治体などの「拙速」という非難の嵐をもともせず、突き進む野田政権には、経産省OBで原発の再稼働を容認する立場の福島伸亨衆院議員(民主党)でさえ、こうあきれる。

「(再稼働問題を)首相と3大臣らが政治判断するやり方は野蠻以外の何物でもない。あまりに稚拙です」

再稼働の是非を決める協
ミサイル騒ぎも吹き飛ばさず。野田政権が「安全宣言」を発してしまつた。枝野幸男経済産業相らが4月14日、福井県を訪れ、関西電力大飯原発3、4号機(同県おおい町)の再稼働へと猛進したのだ。だが国民不在の茶番劇はもういい加減にして、「原発ゼロ」の先にある未来を真剣に考えるべきではないか。

議はこれまで計6回、野田首相と枝野経産相に藤村修官房長官、細野豪志原発担当相の4閣僚を中心に行ってきたが、協議には実は「裏参謀」がいた。

「協議を仕切つたのはオプザバーという形で参加していた仙谷由人政調会長代行です。それを再稼働推進派の今井尚哉資源エネルギー庁次長や深野弘行原子力安全・保安院長、古川元久国家戦略担当相らが、かいがいしくサポートしてしまつた。原発輸出の旗振り役で電力会社と強いパイプがある仙谷さんは経産省にと

つて頼れる味方で、14日も枝野さんと福井入りしました」(官邸関係者)

仙谷政調会長代行は前原誠司政調会長を支持する「凌雲会」を束ねる後見人で、グループには枝野、細野、古川各氏の3大臣も所属。

昨年8月の党代表選では凌雲会の票を回すなどし、野田政権の生みの親となつた。「党内に設けられた『東電・電力改革プロジェクトチーム(P.T)』の会長も務める仙谷氏は今井エネルギー庁次長と結託し、『党内の意見集約をしても消費増税と同様、大混乱し、政権にダメージを与えるだけだ』と前原さんを説得。前原さんは『政府に判断を一任する』と言い、党内議論を早々に放棄しました」(同)

こうしたやり方に、民主党の「原発事故収束対策P.T」(荒井聰座長)は10日、

緊急提言を興石東幹事長に提出して抵抗した。荒井座長はこう語る。

「再稼働は政治家が判断する問題ではなく、原子力規制庁を一刻も早く発足させ、そこで議論すべきだ。野田首相に電話し、意見を聞いてほしいとお願ひした」

だが、野田首相は経産省が描くスケジュール「①3月中に首相と3大臣が協議を重ね、再稼働を地元で打診することを決定②4月中に枝野経産相が地元を説得し、合意を取りつける③5月初旬、首相らが再稼働を政治決断し、宣言する」(関係者)に沿って粛々と動いているという。

しかし、あまりの拙速さに国民の不信は頂点に達しつつある。

「当初は4月1日に原子力規制庁が発足することで免罪符になると思っていたが、規制庁の設置が間に合わなくなり、泥縄式になつた」(前出の福島氏)

5月5日には国内の原発54基のうち、唯一稼働して

いる北海道電力泊原発3号機が定期検査のため停止する。大飯原発の再稼働が5月までに間に合わなければ、日本は「原発ゼロ」という1969年以來の事態に直面する。

「割高でも火力発電などで夏の電力需要のピークを乗り越えれば、『原発はいらない』と脱原発の機運はさらに盛り上がりつつある。全原発停止の状態を少しでも長引かせたくない経産省は焦るあまり、野田政権に強行突破させ、かえって次々と馬脚を現していますね」(経産省OB)

特に枝野経産相は国会で「私も再稼働に反対」などと大見えを切つたにもかかわらず、わずか一晩で「今日は昨日の段階と違う」と変節するなどブレまくり、地元の不信感を増大させたことは前号で報じたとおり。「実は枝野さんの発言は仙谷さんの『振り付け』です。仙谷さんは枝野さんを9月の代表選に出馬させようと水面下で動いていま

す。消費増税、原発再稼働のダブルパンチで野田首相はそこまでもたないとらんでいるのです。電力総連(全国電力関連産業労働組合総連合)、電力4社などから支援を受ける民主党の結論は最初から「原発の再稼働ありき」でも、ホープの枝野さんにあえて経産官僚と戦うポーズをとらせ、民主党らしさを演出しようとしたのです」(民主党幹部)

一方、再稼働を容認している自民党の谷垣禎一総裁は4月11日の党首討論で、迷走するこの問題については避けるように触れなかつた。

9月に総裁選を控える谷垣氏はそれまでに解散・総選挙に持ち込めなければ、

めげない原子炉メーカー 廃炉技術開発で「焼け太り」?

国内外の英知を結集する。福島第一原発の廃炉に向けた、政府・東京電力の中期対策会議は昨年末、今

再選の目はないともささやかれるが、自民党国対幹部がその戦略をこう語る。

「執行部は消費増税、原発の再稼働というやっかいな問題は裏で手を握つて野田政権に片づけさせ、めどがついたら選挙に突入する」という、話し合い解散を今も模索しています。ただし、自民が協力する条件は首相が小沢グループら消費増税反対派をパッサリと切ることに。そうなれば、数の上で優位に立てる。今国会前後であれば、自民党は過半数は無理でも第1党にはなれる。民主と大連立しても首相は自民党から出せるといふ皮算用です」

しかし、この動きに待つたをかけるように、大阪市

の橋下徹市長が大飯原発の再稼働を次期衆院選の争点としてブチ上げた。

橋下氏は再稼働の前提として8条件を提示し、「選挙で国民に(政府か、8条件の)どちらを取るか判断してもらおう。民主党政権を倒す」などと挑発した。

元経産官僚で大阪府市長本部の特別顧問を務める古賀茂明氏がこう言う。「原発の再稼働はわが国にとって重大なテーマなので、国民を巻き込んで議論するべき。民主、自民の談合で勝手に判断されるのを阻止すべく、橋下さんはあえて踏み込んだのです」

これ以上、野田政権の愚行を許してはならない。本誌・森下香枝、佐藤秀男

後30年から40年をめどに廃炉を実現するロードマップをつくつた。

炉にする作業は、過去に人類が経験したことのない難事業だ。それだけに、国内のみならず、海外の技術も

決着は衆院選でつけるしかない? 枝野経産相(左)と橋下大阪市長。左ページは大飯原発3、4号機